

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990800033		
法人名	社会福祉法人 清和会		
事業所名	グループホーム あんきな家		
所在地	高知県土佐清水市加久見1464-279		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の、その人らしさを大切に、みんなで協力し合い生活する。その中でも、その人の役割をもち、その人らしい生活を送って頂く。(家事が得意な方、体は動かせなくても みんなの癒しになる・・・など)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JgvosyoCd=3990800033-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年9月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人が経営する小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービスセンター等を併設した複合施設の2階にある。管理者及び職員は、事業所の理念に基づき、利用者と一緒に「楽しみながら」「なじみの関係」を持って接することに積極的に取り組んでおり、地域の清掃・盆踊り・運動会等に参加し、事業所に地域の神輿がきて利用者が神輿くぐりをするなど地域とふれ合う機会をつくることに努めている。事業所合同の行事である七草がゆ・納涼祭には地域住民や他地区からの参加があり、地域交流の場になっている。また、併設事業所との合同交流では、活動が難しい利用者も参加して、一人ひとりの役割を大切に多彩な催しを利用者と職員・施設長と一緒に楽しみ、職員と利用者の笑顔につながっている。ケアの面では、利用者の尊厳を大切に言葉遣いや、人格を尊重した対応に徹底して取り組んでおり、その人らしい暮らしの継続に努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するため、毎月グループホームの全体会で理念の唱和を行い、自己反省や取り組みを話し合っている。	ケアの基本に「仲良く、楽しく、けじめをつけて接する」という事業所独自の理念をフロアに掲示し、毎月の職員会で唱和し意識付けを行っている。その人らしさを大切に、楽しく過ごせるようその都度注意し合い、毎月の職員会で確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の祭りでは施設に神輿が来てくれたり、地域の方に参加していただけるイベントを開催したり地域のイベントに参加したりと交流に努めている。	地元自治会に加入して地域の消防訓練や清掃活動に参加し、清掃には利用者が共に参加する時もある。祭りや盆踊り・産業祭・自衛隊の演奏会には車いすの利用者も一緒に出かけている。事業所の納涼祭等のイベントには地域住民等が参加し、2カ月に1回学童保育との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の知識を深める為、また地域での相談等に対応できるように認知症キャラバンの研修を職員が受講したり、認知症の理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のサービス等の報告とともに、運営推進会議の参加者による意見交換を行い、事業所のサービスの向上に役立てている。	運営推進会議は、事業所の活動報告が主になっているが、評価結果の報告も行われ意見交換している。事業所への改善要望も出されており、意見の反映に努めている。事業所便りで会議の開催日時や会議内容の概要を報告し、会議録は閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じて事業所の実情を伝えたり、随時、電話での相談を行ったり協力関係を築くよう努めている。	市担当者とは、運営推進会議や事故報告等を通じて実状を伝えたり、運営に関して随時の電話相談を行い、助言等の協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針で身体拘束は行わないケアに取り組んでおり、そのリスクについてはその都度ご家族と相談しながら、個々の利用者について一番良いと思われるケアを提供できるように努めている。	職員は研修に交替で参加し、身体拘束をしないケアを理解して実践につなげている。事業所が2階のため、出入口にセンサーをつけて安全を図っているが、日中は施錠していない。外出傾向がある利用者には、言葉をかけて見守り、外出に同行している。転倒等ケアに伴うリスクについては、随時、家族と話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で介護従事者の基本として守るべきことを基本とし、徹底を伝えると同時に研修に参加し、研修内容を職員間で共有し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて、状況に応じて職員間での話し合いの機会を持ち、利用者の権利を守る支援に取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やその解除に当たっては、利用者・家族に説明を行い、十分納得していただいた上で契約の締結を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については日々傾聴し、意向を汲み取り対応するように心がけている。ご家族については面会時の話し合いや電話により、コミュニケーションと意識の共有を図るように努め、運営に反映させるように努めている。	利用者の思いは、日々の関わりの中で把握し、家族には、面会時や電話連絡時に聞いている。家族会は2カ月に1回開催予定だが、今年は開いていない。運営推進会議でも家族の意見(苦情)が出されている。出された苦情については、経過や対策等の記録があり、運営に反映している。	家族会は、より多くの家族が集まって話し合い、多様な意見を出せる場として開催することを期待したい。また、その場で、出された意見や要望をサービスの向上に活かしていくことを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所全体会を開催し、職員の意見やアイデアを聞いたり話し合いを行い、また、随時意見を話し合える関係作りを行い、運営に反映させるように努めている。	月1回の所内の各委員会に施設長が参加し、職員の意見や提案を聞く場になっている。希望により常勤雇用になった職員が、利用者の立位・歩行訓練等ケアの充実に取り組みことができ、休憩も取れるようになった事例がある。また、職員の異動は、事前に相談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、職員の自己評価を行ったり、スターカードを導入し善い行いを褒賞し、勤務意欲の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの向上やケアの改善に向けて、研修の機会をできるだけ多く取り入れるように努め、研修報告を行う機会を持ち、各職員の自己研鑽を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各施設のイベントに参加しあったり、3か月に1回の市内グループホーム連絡会を開催し、意見交換を行う機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に新規入居者の全体像や意向を把握するように努め、職員間の共有を図り、入居後の情報や観察をもとに速やかに職員、新規入居者や他者との関係の構築を図って、落ち着いて穏やかに過ごして頂けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の意向や要望を把握し、信頼関係を築いていけるように図り、入居後もご家族と協働して利用者を支援していけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況や家族の意向を踏まえ、必要なサービスや、今後必要と思われるサービスについて意見交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者の様子を敏感に察知するように努めながら、職員も日常生活全般を共に行う者としての関係を築き支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に情報交換を行い、本人の要望や暮らしぶりなどを共有するとともに、家族の協力を得ながら支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	複合施設であることの強みとして昔馴染みの知人と会う機会を持ったり、面会に来て頂き易い雰囲気作りを行っている。また、利用者の行きたい馴染みの場所へも行けるように努めている。	利用者の馴染みの人や場所を把握し、初詣や地元への買い物、馴染みの場所へのドライブ等を通じて、旧知の人や場所との関係が継続するよう努めている。また、地域での餅投げに参加したときは、昔を思い出せるよう帰所後に事業所で餅投げをすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間の会話の懸け橋となり、孤立することなく過ごせるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、電話連絡や手紙等により事業所の近況報告などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の思いや暮らし方の希望を聞いたり、意向を汲み取るように努めている。また、自然な生活リズムが最大限保てるよう本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者個々の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、何気なく出た言葉や表情からその真意を推測したり、家族からも希望を聞き、その人らしく暮らし続ける支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族との話し合いや、その他の関係先からの情報により、昔から本人が日課にしている事や仕事、趣味などを把握しケアに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、引継ぎを活用して把握と情報の共有に努めている。その日にあったこともタイムリーに記載し、把握と共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況や、家族の気づきや要望を聞いて介護計画を作成している。毎月1回は面会や電話連絡で話し合いを行っている。状況の変化があればその時点で話し合いを行い、介護計画を作成するように努めている。	介護計画に沿って、担当職員と管理者で毎月モニタリングを行い、利用者、家族の要望等を聞いてケアマネジャーが計画を作成し、職員全体でカンファレンスを行っている。定期的見直しは3～6カ月毎に行い、利用者の状態が変化した時は、その都度見直している。希望により、家族がカンファレンスに出席することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の話し合いや、業務日誌や個人記録をもとに職員間で情報を共有し、意見交換を行いながら介護計画や日々の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個々のニーズには、職員間での話し合いの上、即座に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように、地域の自治体の行事には積極的に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向に沿ったかかりつけ医や、専門医の受診を支援している。市内の受診は職員が介助し、家族の同行もお願いしているが、家族が同行出来ない時は電話連絡で受診による情報の共有を図っている。	希望に沿ったかかりつけ医や専門医への受診を支援しているが、協力病院への受診希望が多くなっている。市内の受診は職員が介助し、家族が同行する時もある。市外については家族が対応し、職員が同行している。受診結果は個人ファイルに記録し、家族及び職員と情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、事業所に看護師は配置していないが、病院とは密に連絡を取り、必要時には直ちに受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、退院後も医療機関とは常に連絡をとり、利用者の状況把握に努め、安心して治療できるように努めている。また、退院時には退院後の生活に支障がないよう担当者会議を開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは現在のところ実施していない。契約締結時に、「看取り(重度化)について」の説明書に沿って事業所ができること、できないことを明確に説明している。また、利用者、家族が望む限り、病院と協働してできる限り施設での生活を継続していけるように努めている。	看護師は配置しておらず、施設では対応が困難なため、事業所での看取りはしない方針であることを契約時に説明している。利用者、家族の希望があれば、協力病院と相談して、事業所が出来る限りの支援に努めている。「看取り(重度化)について」の説明書はなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は全員普通救命講習を修了しており、1年もしくは2年に1回全職員が普通救命講習を再受講して、救急の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月と9月に消防署が参加しての消防訓練を実施し、消防のアドバイスを得て、6月と12月にはそれを踏まえての自主防災訓練を行っている。法人施設が福祉避難所になっており、地域との協力体制を図っていくよう努めている。	消防署の協力による防火訓練と、事業所独自の訓練をそれぞれ年2回実施している。前回目標達成計画にあげた災害発生時のマニュアルが作成されており、それに沿った訓練を行っている。非常用品については、法人全体で倉庫に保管する方針があるが、米と水のみで備蓄になっている。	事業所の避難訓練に地域住民の参加・協力が得られるよう、運営推進会議等で継続的に取り組むことを期待したい。また、事業所が2階であるため避難経路や、水、米以外の食料等の備蓄について、早急に検討することを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等、本人が誇りを傷つけないように配慮し、居室でのプライバシーを損ねない心がけをしている。入居者を年長者として尊重し、尊厳が損なわれることのないように職員一人一人が配慮して、日々の生活の中で利用者へ接している。	トイレ誘導等利用者が羞恥を感じるケアでは、本人の気持ちを考え、小声での声かけや目立たない介助に努めている。居室へ入る時は必ずノックし、入浴支援は同性介助を行っている。職員には、利用者のプライバシーに関する事を外部で話さないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でさりげなく希望や要望を把握するように努め、利用者がその人らしい生活を送れるように自己決定できる場面作りを行うなど支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを大切にして体調や気分に応じた環境を整え、声掛けのタイミングを工夫するなどその人らしく過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回は訪問理容により散髪による整容を行い、また希望があれば、随時訪問理容をお願いしている。朝の整容を促したり介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立と食材の提供を受け、調理は職員と利用者が協働して行っている。また、利用者の好きな料理が食べられるように適時、メニューも変更している。職員は利用者と一緒に食事をして片づけも協働で行っている。	所内の給食委員会で、利用者の希望を聞き、翌月の献立等に反映している。法人の栄養士から献立と食材の提供を受け、職員と利用者が一緒に食材を切ったり・味付け・盛り付けをしている。職員は、利用者と一緒に食事を楽しみ、2か月に1回は外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日把握し、水分量に関しては昼後に1回集計を出して、少ない方はさらに促しをしていくように確保に努めている。形態も利用者にあわせて対応し、できるだけ摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操を行い、食後は声掛けや介助により口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせてトイレの誘導を行い、状況を職員が共有している。また、おむつや尿取りについては随時状況に即した変更を行い、失禁による混乱やトラブルが起きないように配慮している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや夜間等のコールボタンによる誘導、自分でトイレに行ける利用者の見守り等、利用者の状態に合わせて全利用者がトイレで排泄できるよう支援している。尿取りパッドは適切なものを選択し、布パンツの利用者には、状態が維持できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者が把握出来るように3日以上便が出ていない利用者については全職員が把握し、早期の改善に当たっている。食での改善を図るため、利用者に応じて便秘を解消する食品を導入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に沿って、入浴を行っている。基本は午後からにし、職員体制が十分な時間帯での入浴を行っている。入浴を拒否する利用者については誘い方や時間をずらす工夫をして3日に1回は必ず入浴できるように支援している。	利用者の体調や希望に応じて、午後に入浴している。夕食後に入浴の希望があるときは、職員配置に留意して対応しており、毎日の入浴を希望する利用者もある。入浴を拒否する利用者には、声かけ等を工夫して入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人での時間も大切に、本人の体調や希望を考慮して、好きなように横になったり就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用している薬の理解や、服薬に変更があった時は申し送りや日誌で情報を職員間で共有して、状態の把握や経過を個人記録に記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活全般において、利用者に出ることをお願いして行って頂いており、日常生活のあらゆる場面で歌を楽しんだり、イベントへの参加で気分転換を図ったり楽しく過ごして頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に沿って外出を取り入れるように努めている。地域でのイベントや季節の外出レクリエーションを行い、また知人との面会に他部署に行く支援を行っている。	気候の良い時は、午後のレクリエーションの時間に利用者が2～3人交替で事業所近くを散歩し、車いすの利用者も月に1回は散歩している。また、月2回全員でドライブしており、地域の行事や季節が感じられるように、積極的に外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は現金を所持されていないが、家族と相談しながら欲しい物が購入できるように図っている。ご自分で手持ちの現金を所持している方は、家族の了解のもと自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話が出来るように随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には利用者の作品やイベントの写真等を貼り、いつでも見て頂けるようにしている。	共用空間は広く、利用者が思い思いにくつろげるようにソファやテレビを配置している。壁面には、利用者の行事の時の写真や作品を展示し、食堂の近くにある居室には入口に暖簾を掛け、プライバシーを守るとともに、食堂に家庭の雰囲気を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳コーナーやソファで利用者がそれぞれの空間を作り、日常生活の音を聞きながら一人で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具などを置き、又、懐かしい思い出の写真やご家族の最近の写真なども飾られ、ご家族の協力でそれぞれがご自分の部屋として落ち着いて過ごして頂けるようにしている。	居室は明るく、利用者は馴染みのタンス・椅子・冷蔵庫等を持ち込んでいる。季節に合わせて風鈴・花・鉢物を置いたり、自作の俳句を飾ったりして、利用者それぞれが過ごしやすい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、専門の方に助言を頂きながら、必要時には介護福祉用具を使用し、住みやすい、過ごしやすい環境に近づけている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない